



平成 29 年 12 月 14 日

各 位

上場会社名 株式会社 ミロク
 代表者名 代表取締役社長 弥勒 美彦
 (コード番号 7983)
 問合せ先責任者 常務取締役 中澤 紀明
 (TEL 088-863-3310)

「2018 中期経営計画」策定に関するお知らせ

当社は、2018 年 10 月期を初年度とする 3 ヶ年のローリングを行い「2018 中期経営計画」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 「2018 中期経営計画」策定の背景

2017 年 10 月期につきましては、猟銃事業では高付加価値銃の販売、工作機械事業では好調な加工部門と高単価製品の旺盛な需要等から、過去最高益更新も視野に入る高水準の利益を確保することができました。

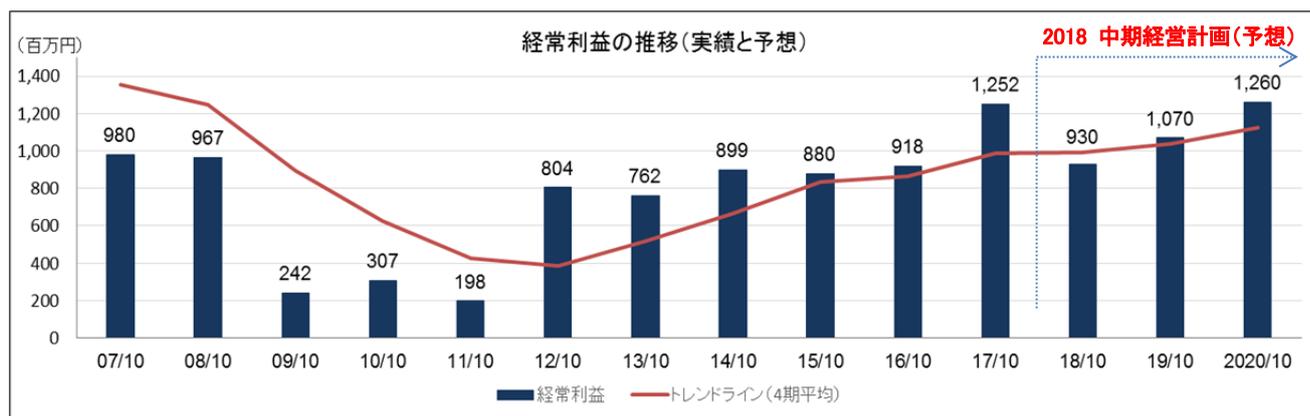
「2018 中期経営計画」につきましては、初年度（2018 年 10 月期）に、前年度の好調、好条件の反動等による影響を織り込み、利益低下を余儀なくされますが、次年度以降につきましては、経常利益において年平均 15%前後の成長を遂げることを目標に掲げ、当中期経営計画を策定いたしました。

本計画の遂行により、2012 年 10 月期からの利益成長トレンドの維持を図ってまいります。

2. 「2018 中期経営計画」の基本方針

当社は、ミロクグループの長期ビジョンとして「主力三事業の強みを活かし、向上させ、かつ新たな新規事業を創出することで盤石の経営基盤を築き、今後も成長し続ける企業グループを目指す」を掲げ、その実現に向けたマイルストーンとして中期経営計画を策定しております。「2018 中期経営計画」としましては、収益性及び需要変化への対応力を意識した、高い剛性と靱性を併せ持つ収益基盤の構築、環境の変化に迅速に適応できる経営基盤の強化、教育と採用の強化を通じて次代を担う人財の成長と活性化を図る、を基本戦略として鋭意努力してまいります。

猟銃事業につきましては、高水準の米国景気によって購買意欲を増す顧客を満足する高付加価値銃をタイムリーに市場に投入するべく、フレキシブルな生産体制を盤石のものとしてまいります。顧客であるブローニング社との密接なパートナー関係を強固なものとし、両社の相乗効果により利益拡大を目指します。また工作機械事業では、機械部門の販売機会を漏れなく掴みながら、加工部門における加工能力と営業力を強化して利益増大を図り、自動車関連事業では、純木製ステアリングハンドルとその加飾技術製品の販売を着実に推進するとともに、小さな新規事業の種からの新たな展開を模索し、主力三事業で計画利益の達成に邁進いたします。



3. 事業別重点施策

① 猟銃事業

主力の米国市場は、流通在庫調整の影響から、短期的には当社に限らず生産量の拡大は難しくなるものの中長期的には右肩上がりの傾向にあるものと思われま。また欧州市場についても、短期的には英国のEU離脱の影響等がありますが中長期的には猟銃の需要は回復基調にあると思われま。加えて、狩猟用銃よりも高付加価値であるスポーツ射撃用銃の販売が伸びており、この当社にとって望ましい販売機会を確実に捉え、剛性のある収益基盤を築いてまいりま。

当社最大顧客であるブローニング社は、カテゴリー毎に低価格製品から高価格製品までを揃え市場占有率拡大という成長戦略を掲げており、当社としましては、設計及び製造の品質向上、工程の自動化等生産技術力の向上、低価格製品においても一定の価格競争力を維持し、同社の戦略に追随して販売強化に取り組んでまいりま。また、あわせて国内販売も推進し利益獲得に向けて注力いたしま。

② 工作機械事業

主力のガンドリルマシンの主たる顧客である自動車業界が大変革を迎える時代となりつつあり、ガンドリルマシンの販売拡大は依然として厳しい状況にあります。

このような環境のもと、機械部門とツール部門では、安定収益基盤として極小径ガンドリルマシンを足掛かりとして地道に新たな顧客獲得を目指し、既存顧客との関係強化と合わせた一層のシェア拡大に努めてまいりま。さらに、加工部門を成長事業と位置づけ、顧客動向に機敏に対応して既存工場増築等を含めた加工設備の増強を行い、既存ユーザーと関係を強化し、加工部門を通じて新規顧客を獲得し機械部門等へ展開させていきます。また需要に応じたあらゆる径の深孔明けニーズに対応してまいりま。引き続き全社的に原価低減を推進し、売上高及び利益の拡大に努めてまいりま。

③ 自動車関連事業

主力である純木製ステアリングハンドルは、4期連続の減少となりましたが、次期は既存車種の増産と新製品の量産開始が予定されており、増加に転じる見込みであります。また前期より量産開始した加飾ハンドルは、純木製ステアリングハンドルに次ぐ製品として安定的な生産量を確保できる見通しであります。2016年に竣工した樹脂成形工場では、加飾ハンドルの樹脂部品に加え、前期に純木製ハンドル用樹脂部品の生産を開始しました。今後も新たなハンドル部品の生産開始が予定されており、生産量は順調に増加する見込みです。

また、新素材とアイデアと新技術を融合させて、価値訴求を主張できる市場競争力の高いステアリングハンドル等自動車部品を開発し、また2017年5月に発売された高級扇風機向け木製部品のような自動車以外の加飾部品や木製品の案件開拓活動を進めてまいりま。引き続き原価低減を推進し、中期的な売上高拡大と利益確保に努めてまいりま。

4. 数値計画（連結）

単位：百万円

	2017/10期 実績	2018/10期 予想	2019/10期 予想	2020/10期 予想	(ご参考：過去最高益) 2005/10期(実績)
売上高	12,549	12,350	12,700	13,000	15,396
営業利益	1,108	800	940	1,120	1,361
経常利益	1,252	930	1,070	1,260	1,641
親会社株主に 帰属する当期純利益	965	640	730	870	1,028

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上